

令和2年度 神戸市立科学技術高等学校 マネジメントプラン実施報告書

項	教育目標	重点目標 (努力目標)	具体的な取組	達成状況・課題	自己評価 (4点満点)	改善の方策	外部評価	外部評価コメント
心豊かにたくましく生きる 神戸の子供を育む 未来を拓く力	ものをつくる喜び	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組	・将来必要となる資質を踏まえた授業改善、授業研究会や研究授業の実施	○定期考査ごと(5回)に授業研究会での研修を実施。リモート会議システムの活用法など内容・質共に校務の状況に即したテーマを選択。 ■新型コロナの影響で外部に向けた授業公開が実施できなかった。 ■教科を越えた研究授業や授業見学等の実施が課題	3.1	・日常的に授業見学ができる風土づくり。 ・任意参加の研修に加え、各科による技術伝承に係る研修会や全体で新学習要領における学びや評価について研修を実施し、教科の違いを超えて授業について話し合える環境を整える。	A	・ポストコロナの時代を迎えつつあるいま、ますます教科を横断した資質・能力の育成が重用になってきます。教科を越えて全体のカリキュラムをマネジメントすることが重用であり、課題としてあげられているように、育成する生徒像を教科の枠にとらわれずに共有できるような授業見学や研究授業の実施が強く望まれます。 ・課題として教科間連携をあげられていますが、これの推進に期待します。 ・学習指導要領には社会の動向が織り込まれており、これを理解することが欠かせませんが、意外と理解できていないものです。改善策にあるように、さらなる研修の機会を設けられることに期待します。ICTの活用は、教科学力の向上の前提として、授業内外(委員会や学級や部活などを含む)における日常的な活用と生徒の情報活用力の育成(ICTを生徒たちが滑らかにつまづきなく使えるなど)ができていなければ、学力向上には結びつきません。拙速に教科学力の向上だけに焦点化して授業内の局所的な活用だけを考えるのではなく、学校全体のコミュニケーションや活動のデジタル化といった広い視野でのICT活用を教員全員が意識することが重用です。「科学技術」の名にふさわしい、生徒と教職員の日常にあふれるICT活用を期待します。 ・「ものづくり教育」の内容が、現場技術のみから、ソフトの付加、場合によってはグローバルな視点(CO2削減)を要求されるなど、多彩な内容に変わって来ており、それに備えた対応を希望する。
			・各教科の学習の特質に応じたシラバスの策定	○各教科でシラバスの策定を行い、生徒への配付を年度当初に行っている。 ■新学習指導要領の実施に向け、生徒の実態と、身に着けさせたい力のバランスを考え、シラバスの内容についての精査が必要。		・新学習指導要領の実施に向けた教科書の選定に伴い、各教科科目のシラバスを再構築し、評価についての共通認識を図る。 ・カリキュラムマネジメントの観点からの教科間連携を検討。		
			・授業における思考、判断、表現する場面の設定と評価の研修、及びICTの活用	○授業に使うICT端末やプロジェクトの整備によって様々な形式で授業が展開され授業に幅ができています。 ○生徒一人一台端末を、科学工学科にて先行導入。 ○全国一斉休校を機に、若手教員を中心に積極的なICTや、ネット会議システムの活用が促進された。 ■アクティブラーニング、ICT、グループウェア等を活用し、思考、判断、表現する授業展開と評価に関する全体研修等を実施する必要あり。		・学校全体で新学習要領における学びや評価について研修する機会を持つ。 ・ICTを授業で効果的に利用するために実践事例等の研修を実施する。 ・ICTの活用に向けた安定した環境整備を引き続き行う。 ・WWL共同実施校の3年目を迎えるにあたり、引き続き外部の課題研究・探究活動の発表会等への積極的参加し、思考力・判断力・表現力を総合的に養う機会を積極的に持つ。		
	科学する心	キャリア教育の視点から一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度の育成	・各部署間で連携を図り、キャリア教育の視点で教育活動の実施	○各学年で工夫し取組を進めている。 ○コロナ禍で対面形式の講演会の実施が難しい中で動画等も積極的に活用した。 ■学年、各々が連携を図り、3年間を通した体系的なキャリア教育プランを策定する必要あり。	3.3	・体系的なキャリア教育の見直しを図るため、現在実施している取組をデータベース化し、共有化を図り、キャリア教育のマスタープランの策定を進める。 ・産官学の外部資源の活用を見据えた取組の研究を行う。	A	・コロナ禍で困難ななかでも、できることを積極的に実施してきたことは高く評価ができます。インターンに際して、教員による企業訪問や企業との打ち合わせにかなりのマンパワーがとられていたことがかつての課題として挙げられていましたが、今回の成果に記載されているようなビデオ会議システムを積極的に活用することで、効率よく業務を改善できるのではないかと思います。 ・コロナ禍で困難ななかでも、できることを積極的に実施してきたことは高く評価ができます。学年を越えた情報共有や情報伝達にICTを活用することも検討できるのではないかと思います。
			・インターンシップ、オープンキャンパス等の参加の推進	○コロナ禍で実施が困難な時期もあり、例年通りに実施できなかった部分もあるが、企業側とも連携を図り可能な限りインターンシップを実施した。 ○ビデオ会議システムを利用した企業見学会を一部企業で実施。 ■ネットを介した応募前見学やweb試験の対応に苦慮。(企業ごとに利用するシステムが異なる等)		・今年度実施できなかった取組についても、精選したうえで次年度実施の可能性を探る。 ・授業との関係もあり、長期休暇中の実施など時期についても検討する。 ・今年度の経験を活かして、リスク少ない状態で実施出来る形態を模索する。 ・機器や部屋を含めたweb環境やリモート会議システムを整備する。		
			・各学年において生徒の発達段階に応じた取組の推進・工夫	○キャリアガイダンス、講話等に加え、ソーシャルスキルトレーニングを導入するなど各学年、学科が中心となり生徒状況に合致した取組を行っている。 ○コロナ禍で外部人材(卒業生を含む)との懇談の機会が持てず、3年生からの助言を聞く機会を持つなど、工夫をして取組を行った。 ■学科・学年・キャリアセンターが連携し、情報共有が必		・テーマや目的を精選し指導していく中で改善を図る。 ・学校、学科、学年のそれぞれでの指針や目標を明示し情報共有する機会を持ち効果的な連携につなげていく。		
	ものづくり教育を通して社会に貢献できる人材の育成	ものづくり教育を推進	・職業資格・技能検定試験の取組推進	○コロナ禍で実施回数減少したものもあるが、各科で各種資格検定の取得を推奨したり、研究会でものづくりコンテストに挑戦させるなど、生徒の興味・関心を励起するとともに、取得に向けたサポートを適切に行っている。 ■検定に向けた補習授業の実施など教員側の負担もあ	3.3	・各科で資格検定の精選を行うとともに、学校全体としての学習サポート体制について再検討する。	A	・これまでの取り組みの積み重ねが今年度の成果につながっていることが感じられます。 ・防災教育の成果がスタート嬉しく思います。この調子で継続して先陣を切ってください。 ・その資格がどういった職種や場面で使えるのかの説明がもう少しあるとよいと思います。生徒本人も何に使えるのか、どういったときに使えるのかかわかっていない資格があります。
			・積極的な地域貢献を行い、その取り組みを校外に発信	○従来行ってきたものづくり(ロボット・防災など)を通じた地域貢献に加え、近隣新設学校の模型制作、中央区社協の「オンラインツール勉強会」での指導補助など地域に根づいた取組も行われつつある。 ○各取組については学校ホームページでその都度発信している。		・工業高校の特色を生かした地域貢献の在り方を、今後も各学科等で検討していく。		
			・安全教育の推進	○実習開始前の集合時にあらためて注意喚起を促すなど積極的に取り組んでいる。 ■常時おこぬことで形式化しがちな部分であり、常に意識を新たに取組む必要がある。		近年、大きなケガに繋がる事象はないが、若い教員も増えてきているため改めて教員に向けた研修等を実施する。		

項	教育目標	重点目標 (努力目標)	具体的な取組	達成状況・課題	自己評価 (4点満点)	改善の方策	外部評価	外部評価コメント
安全・地域・安心で共に楽しみ学校を支える	社会で生きる力の育成	インクルーシブ教育システムの理念をもとに、個々の違いを認め合いながら、共に学び生き生きと学校生活が過ごせる環境の構築	PDCAサイクルによる授業改善	○年2回程度、管理職が希望者の授業見学を行い、フィードバックを行った。 ■授業評価アンケートの結果が必ずしも授業改善に活用されていない。 ■PDCAサイクルによる授業改善が具体的な取組に反映していない部分がある。	3.1	・時間割上、互いの授業見学が困難な場面もあるため、授業動画を用いた授業研究等の工夫をし、より多くの教員間で研修を行う。 ・教員間でいつでも互いの授業をフリーに見学しあえる関係を醸成したい。	A	・情報モラル教育を丁寧に行われている様子が伺えます。一方で、これからの時代にはデジタルシティズンシップ教育の考え方を取り入れていく必要もあろうかと思えます。国内にはまだ教材や指導法がそれほどありませんが、積極的に責任感をもってICTを活用する姿勢を育成するには欠かせません。
			いじめの早期発見・早期対応及び情報モラル研修の実施	○いじめアンケートなどを通して、いじめの早期発見、早期対応、保護者関係機関との連携などに取り組めた。 ○科会議等で常に生徒情報交換を行っている。 ○職員会議にて情報モラル等研修を年5階程度実施。 ■顕在化しにくい事例もあり、どのようにして見極めるかが課題。		・定期的ないじめアンケートにとどまらず、日々の観察の中で得た情報を積極的に共有するとともに、科、学年、教科担当といった広い範囲での定期的な情報交換会が必要。		
			合理的配慮による組織的・継続的支援	○担当教員を中心に保護者対応を含めて、きめ細やかな対応がなされている。 ○各学年の情報共有等は進んできている。 ■「組織的」という部分ではいまだ不十分な面もある。		・情報共有の徹底と若手担当教員の育成を行う。 ・世論、社会情勢と学校現場での意識の差を埋める研修も必要。		
	資格取得やものづくりを通して、基礎的・基本的な技術を習得	専門技術、先端技術を意欲的に学習	○課題研究、実習ならびに資格取得の中で、専門的な技術を学ぶことができている。 ○教員の「技術の伝承の取組」や、職業能力開発協会のものづくりマイスター指導による支援を実施している。 ■普通科に関する資格試験も推進すべきでは。 ■授業が資格検定準備のために時間をさかれている場面もあり本来の授業の目的との整合性が課題。	3.3	・科内だけでなく、学科間の連携をしっかりと図る。 ・各科シラバスを見直し、座学、実習、教科間等の連携を踏まえた年間計画を作成する。	A	・前年度までの課題であった教員の技能伝承に対して積極的な取り組みをされていることは高く評価できます。企業等、社会との連携による情報収集にも意欲的に取組んでおられます。改善策であげておられるように、継続した取り組みとなることを期待します。 ・課題研究のテーマ選定や、企業との連携がうまく行われている様子だ。拝聴したいテーマが数多くあった。成果発表の場も多岐にわたり、関係者の努力が伺えた。	
			○教員向け夏季教員研修会「機械加工」、春季教員研修会「デジタル機器の活用(3Dプリンタ)」実施し、年2回の技術・技能の伝承の取組が定着。教員が新しい技術を学び、授業にもその最先端の内容を反映できている。 ○企業による出前授業として最新の車の技術やハイレベルの事業形態などを紹介していただく取組を行った。 ○課題研究等で企業と連携し、より高度な取組が進みつつある。 ■社会に必要な技術を身に付けさせるため、教員側の資質の向上に向けた取組を進める必要がある。		・現在定着しつつある教員研修会をベースとして、教員の資質の向上に向けた取組を継続的に実施する。 ・文部科学省のスマート専門高校の制度に応募し、機器の更新・導入に向けた作業を行っているところであり、導入後は、それらを活用した授業展開を工夫したい。			
	ホームページの更新頻度及び内容の向上	育友会本部役員との情報交換	○臨時休校中の課題の掲示や動画教材の掲載や生徒限定ページによる生徒・保護者への連絡など 学校ホームページを積極的に活用した。 ○学校紹介動画が掲載されるなど、内容の向上がみられた。 ○担当部署の情報発信に加え、各科が積極的に情報発信に取り組み更新頻度も上がっている。 ■神戸市教育委員会として学校ホームページのシステムが変更となるため、今までと同様の情報発信ができるのか	3.7	・神戸市教育委員会としてのシステム更新がなされるため、新しいシステムへの移行を速やかに行うとともに、新システムでの情法提供・提示の方法を検討する。	A	・ウェブサイトは市内のなかでもかなり充実しており高く評価ができます。訪問者の種類別の情報発信、情報の構造化の方法、動画をつかったわかりやすい案内、更新頻度の高いニュース記事、学校への問い合わせなどの情報のわかりやすい明示、レイアウトなど、情報デザインの観点から非常に優れています。新しいシステムに移行しても、新システムの特徴を活かした情報発信に期待します。	
○庶務部、管理職を中心に育友会本部役員との情報交換が出来ている。 ■運営委員会が開催できない時もあり、情報共有の面で難しいことも多かった。また例年実施の研修旅行やものづくり教室もできなかった。			・定期的な情報交換を引き続き充実させる。 ・学年や他部署との情報交換・共有の方策を検討する。		B			・いつもお忙しい中ご協力いただきありがとうございます。

4:達成できた
3:ほぼ達成できた
2:あまり達成できなかった
1:達成できなかった

A:自己評価及び改善の方策は適当である
B:自己評価及び改善の方策は概ね適当である
C:自己評価及び改善の方策は適当でない
D:外部評価できない